

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆24年の農産品輸出、初の1.5兆円超え 12年連続過去最高

・農林水産省は2024年の農林水産物・食品の輸出額が前年比3.7%増の1兆5073億円になったと発表。12年連続で過去最高を更新し、初めて1.5兆円台にのせた。日本産水産物の禁輸が続く中国向けが減る一方、米国や欧州向けが好調。農産物が8.4%増の9818億円、林産物が7.4%増の667億円で水産物が7.5%減の3609億円。

◆土砂災害対策強化で提言案 警戒区域指定など見直しへ—国交省

・土砂災害防止対策の課題について話し合う「第3回土砂災害防止対策推進検討会」が開かれ、対策強化に向けた提言案がまとめられた。最終確認を行った後、3月中に公表する予定。警戒区域外で発生した土砂災害で人的被害が生じている状況を踏まえ、高精度な地形情報を活用し土砂災害警戒区域カバー率向上を図る考え。

◆消費期限、表示日数を長く 食品ロス削減へ指針改正案

・食品期限表示に関する指針の見直しを議論する消費者庁の検討会で、事業者に期限を必要以上に差し引かないよう求める改正案が示された。政府が掲げる食品ロスの削減目標の達成に向けて事業者の対応を促す。賞味期限はおいしく食べられる期間を表し、過ぎても食べることができなくなるわけではない。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆JR東、「空飛ぶクルマ」の発着拠点 都心湾岸の再開発で

・JR東日本は都心湾岸の再開発街区「高輪ゲートウェイシティ」に「空飛ぶクルマ」の発着拠点を設けると明らかに。2028年の運用開始を目指す。運航事業者に施設を開放し、国内外から街に集まる宿泊客などを取り込む。具体的な計画は今後詰めるが、高輪ゲートウェイ駅前(同)の遊休地に離着陸場を設ける見通し。

◆トラスコ中山、愛知に大型物流拠点 工具の通販需要対応

・機械工具専門商社のトラスコ中山は、愛知県北名古屋市に新設する物流センター「プラネット愛知」の竣工式を開いた。2026年7月に稼働する予定。同社最大の施設で、年間の出荷可能額は最大1000億円を見込む。ネット通販などで拡大する工具需要に応え、直接顧客に商品を届けるサービスと組み合わせて販路拡大を狙う。

◆公共工事の労務単価、3月以降分引き上げ検討 国交省

・国土交通省は、国や地方自治体が公共工事の見積もりに使う労務単価について3月以降に適用される分の引き上げを検討。閣僚懇談会で石破茂首相が物価高への対応の一環として、賃金上昇などの情勢を踏まえた労務単価の引き上げを指示。中野国土交通相は今月中に適切な労務単価の設定をしたいと述べた。

《 注目商品 》

■日本スティーベル、簡単設置の小型電気温水器

・小型瞬間式電気温水器「EIL1.4 PREMIUM(JP)」は専用エアレーターで流量を制御し、少ない流量(1.0～1.5L/分)でも手洗いに十分な出湯が可能。水温を約15℃あげて、いつでも「ちょうど良い」温度で快適な手洗い環境を実現。場所を取らない手のひらサイズ。



■パナソニック、工期を半減させる床材のプレカットオーダー

・住宅会社向けに床材の割付・施工に関する熟練技術を不要にする「床材 プレカットオーダー」を開始。基本的な住宅構造や床材施工時のクリアランス、取り合いといった事前条件を取り決めたうえで、物件のCADデータに合わせて割付図を作成。



■シャープ、形状や大きさ選べる住宅用単結晶太陽電池モジュール

・屋根の形状や大きさなどに合わせて選べる住宅用単結晶太陽電池モジュールの新製品3シリーズ計8機種を4月16日より発売。フラッグシップシリーズ<BLACKSOLAR ZERO>に、スリムタイプをラインアップ。効率のよい設置を実現。

